

平成20年度 第4回安曇野市図書館協議会 会議概要

- 1 審議会名 平成20年度 第4回図書館協議会
- 2 日 時 平成21年2月26日 午後1時30分から午後4時まで
- 3 会 場 明科総合支所北大2会議室
- 4 出席者 甕会長、熊井副会長、清沢委員、本郷委員、金子委員、八賀委員、栗林委員、
三重野委員、小原委員、武井委員、青木委員、
- 5 市側出席者 望月教育長、高原文化課長、百瀬図書館長、山崎図書館長、赤堀図書館長、
高山図書館係長、奈良澤主査、細萱主任
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成21年3月6日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 - (1) 開 会 (高原文化課長)
 - (2) あいさつ (甕会長・望月教育長)
 - (3) 協議事項
 - ① 中央図書館整備の進捗状況について
 - ② 穂高図書館の閉館について
 - ③ ボランティア組織について
 - ④ その他について(事業の変更点について報告)
 - (4) 閉 会
- 2 審議概要
 - ①中央図書館整備の進捗状況について
(事務局説明)
会長・・・説明にありましたとおり内容に入っているようだが、書架等、設備はこれからだということ。
今年度は図書購入は21年度に33,500,000円、18,000冊分が入るということでございます。CD, DVDもあるということ、穂高図書館・豊科図書館からの移管分、新規購入分を合わせの13万3千冊
ということでしょうか。(承認)
 - ②穂高図書館の閉館について
(事務局説明)
会長・・・穂高図書館の閉館イベントが4月29日とスケジュールに出ている。6月に竣工式、9月12日がオープンとなっている。

委員・・・今穂高図書館が閉館したら、その後は何に使われるのかとよく聞かれる。どういう使われ方をするのか。

事務局・・・予定だが、昭和50年代の計画でいくと、講堂の一部である小講堂ということで建設計画であった。今は耐震強度の補強がないが、2、3年後に補強工事が終了したら公民館施設の一部としての小講堂として使用をする。それまでは文化課で資料の整理の場所として使う予定である。

③ボランティア組織について
(事務局説明)
会長・・・図書館ボランティアの活動ということで、1の『配架ボランティア』について30名くらい、2の『図書館サポーター』があつてここがちょっと内容が違うというか、研修会を開催してそれによってなつていただくもの、3についてはおはなしの会を主催して職員と協力しながら『よみかせボランティア』を行うということ、『障害者サービスのボランティア』についてはすでに新聞報道などででているが、なおこれを具体的に進めていくということで、何か。

委員・・・2項目の図書館サポーターについて、これは既存のボランティア団体との関係はどうなるのか、一定の人数が集まった場合にこれを組織体とするのかどうか、てんでばらばらとやっていくのかと、ボランティアらしきものを行っている立場からすると、これだけだと何のことなのかかわかってこない。既存の団体というのはどうなるのか、解散するのか拡大するのか。

個人登録という事が強調されているが、少し判りにくい。これを公募ということで広報等で募集する場合、この説明だけでは一般市民の方はなんのことかわからない。それから研修に参加しないものはサポーターになれないのかどうか、これは資格要件なのか。

事務局・・既存の団体をそのまま存続させるのか、解体するのか、既存の団体をそのまま活かさないかと考えている。ただ研修がなぜ必要なのかという部分は、今まで図書館ボランティアは住民の方とは直接的な触れ合いは特にはなく、修理など図書館内部のことを、休館の時に来てもらって色々お手伝いいただいている、本当に今きていただいているボランティアさんはよくやって頂いているなど、ありがたいと思っている。それを壊す気はないが、研修を行うのは、対利用者とは直接会ってサービスを担って頂きたいとありまして、この本はどこにあるのかとか、レファレンスとは違う、案内や、これはどう書けばいいのかとか、自動貸出機の使い方とか、そういったことは研修を受けて、図書館とはどうなっているのか、どこに何があるか、こういう使い方をするというのは、研修をやってもらい、難しいことはもちろん職員がやるが、簡単な案内をしてもらいたいということである。資格というよりはそこのあたりをご理解頂くということで、では既存の団体の方は中央館でどう活動するかという、実はまだ曖昧なところがある。今来ているボランティアの方は手馴れているので、本の修理とか、中の仕事を手伝っている方には、そのまま続けてもらえるのではないかと考えている。詳しくはこれからボランティア団体の会をもったときに詳しく説明が必要と思っている。もう少し時間をいただけないか。

委員・・・今までの話の中で、図書館ボランティアというのは、図書館の案内や、職員が貸出業務を行う際の補助や、本の整理などをしているときに館内に来た方の案内などをする形になるのでは。松本市では信大生がボランティアをしているが、そういった20代前後の人がターゲットで、2、3時間空いた時間に来てもらうという形で募集するといったニュアンスで受け取ったが。

事務局・・ボランティアはあくまで自主的な活動。学生でも主婦でも構わない。市民とともに図書館づくりをしていきたいという願い。職員だけの力では難しい。堅苦しく、どうしてもこの時間にやらなければならないということではない。楽しみながら活動して欲しい。

委員・・・配架ボランティアに関して、高校が市内にいくつかある。そういうところで呼びかけて若い学生にも来てもらえたらいいと思う。図書館サポーターについては学生もいいが、時間の空いている人たちがこれから増えてくると思う、そういう人達にたくさん関わって欲しい。

委員・・・事務局の説明を聞いていると、図書館の職員がボランティアに関わっていかなければ運営していけないというように感じる。配架ボランティアについてはこのままでいいと思う。視覚障害者ボランティアについては今も行っているので、このままでいいが、中央図書館ボランティアは、ボランティア団体をわけたところに問題がある。というのはこれは2本立てということで、まったくゼロからのスタートが2本あるということ。職員が全面的に関わっていくように感じられた。団体についても会議の招集をしたり色々なものをまとめていくことに職員が関わると、ボランティアがボランティアではなくなる。私の考えでは既存のボランティアを集めて、その中から中央図書館ボランティアの核となってもらおう。そうでないと職員がボランティアのとりまとめにかかりっきりになる。

委員・・・職員が前面に関わるという話だが、私たちボランティアの場合は、あくまで職員の手まわらない雑務的なものを手伝っている、補完勢力だと思っている。したがって図書館からの指示がなければ動かないし、動くこと自体が不適切。私はそんなに難しく図書館サポーターというのを考えていないが、ただ個人が集まってきたときに窓口があればいいと。ボランティアがどんどんやってというところも聞くが、実際は行政が手取り足取りやっていることもある。ただ中央館はそういうことを狙っているのではないのでは。穂高図書館の延長に関わる部分ではないと思う。本当にやる気のある人が集まって、継続性がないといけない。

事務局・・職員にとっても、ボランティアにとっても負担にならないようにしたい。図書館で事務局を持つということはず、団体同士の情報交換をする、図書館も情報提供をする、何かあれば協同していくという形を考えている。例えばボランティア団体にはいらないと、よみきかせボランティアができない、ということではなく、多くの方に門戸を広く開けておきたいという意味で、個人

登録という言い方をしている。現在の団体についても、団体という形で登録してもらいたいが、個人でも登録して活躍していただきたい。その中でグループ分けをしていくかはわからない。

委員・・・穂高の絵本とお話の会に所属している。今はおはなし図書館というのを穂高図書館と共催という形でやっている。はじめは図書館職員が一人だけで、読書啓発に関する活動ができないということで、文化教室を受講した人たちが一緒にやり始めた。今は月に一回やっているが、中央館では週1回よみきかせ会をやるという計画になっているが、ボランティアの方を募集してやっていくということだと受け取っている。職員は全体のコーディネイトをするという形になるのか、一緒にお話会もするのか、あるいは養成する立場で講習会を開くとか、講師になるなど、そうした形になるのか。

事務局・・・ある程度の人がない場合は職員もお話会に加わって行うこともある。当初は手が回らないことが予想される。ボランティアの方たちを中心に行うことになると思う。経験のあるボランティアが、初心者の方に教えていくというような形をとれるようにも、相談したい。共催というより、バックアップに回るという程度に、場を用意するというように考えている。

会長・・・これまでに、図書館には専門の司書が2名は必要という話でしたが。

館長・・・司書はいるが、正規の職員ではない。嘱託職員で司書資格がある職員はいる。

会長・・・まず（1）配架ボランティアについては案に沿って進めるということでよいと思う。（2）の図書館サポーターについては配架、修理、利用案内が出来るような体制がくまれていくということで、ボランティア研修をうけて通年でボランティアだということで。いままでのご意見を参考にしていただくということでよいか。

委員・・・今までボランティアのいる図書館に行ったことがない。図書の修理とか黒子のことでいいと思うが、案内とか機械の利用方法とかまでというと、謁見行為というか、では図書館職員は何をするのか。案内役というのはおかしいのではないか。

会長・・・新しい館内で、書架だとか、どこになにがあるのか、ちょっとしたことをサポートしていただければと。

委員・・・それは、銀行とかにいるような、ああいうようなボランティアを想像しているわけか。

会長・・・本を探すときに、自然化学はここだと、そういうふうにはわかる人がいると助かる。探してずっと歩き回るといって、そこにぱっと行くことができればいい。

事務局・・・難しいことをお願いしたいわけではない。図書館の職員によってできることだが、使い勝手がわからないうちは日本の文学はどこかと、場所さえわかればすぐに案内できることなど簡単なことを考えている。図書館のフロア案内という具合に考えている。中には自動貸出機の使い方など、機械が苦手だという方でも一回覚えてしまえば便利に使える機材の利用を促していただくことも含めて考えている。司書でないといけないような、レファレンスという部分に入ってくることは職員で対応する。

事務局・・・職務に当たるところは職員であれ非常勤職員であれ、責任をもって職務にあたる。ある程度の軽い部分、気軽にやっていただける部分はボランティアにお願いするのが自然ではないかと思う。

委員・・・開館時に利用者が殺到したときなどに利用案内をするということを望んでいるということだと思ふ。募集するときに具体的にわかりやすく、事例を書いて欲しい。

委員・・・資料に特に拠点図書館がない場合、とあるが拠点図書館のないボランティアというのはいろのか。

委員・・・私たちはどこにも所属していない。ブックスタートに協力させてもらっているが別に図書館を拠点にしているわけではない。

委員・・・一度ボランティアの集会を行政にお膳立てしてもらって開いたことがあるが、これはボランティアなのか、同好会なのかという印象を受けたことがある。自分たちの好きなことをフィールドを図書館に、主として場所の問題だけをお願いしていることでボランティアとしての大儀を発揮しているのかと。

事務局・・・ボランティア団体によって様々。どの館でもやるということもあるのではないか。

委員・・・現在各図書館を拠点にしているおはなしの会は図書館と一緒に活動していて、お知らせなども図書館から出ている。拠点というのはそうしたことなのかと。もうひとつは社協でやっている団体もある。私からみれば社協が全面的に支えているという解釈。

委員・・・私たちが最初のころ児童館にいったお話会をやらせて欲しいということを申し出たら断られたという経過がある。同じ目的でやっているものなら、社協でやっている方もこちらに来て欲しいと思う。今度中央図書館になったときはそうした枠を取って欲しい。

委員・・・そうならいいと思う。

委員・・・私は三郷でお話会をしているが、社協とかそうした枠をはずすために個人での登録というのがあるとのことだった。広く声をかけて、文化的な活動を広げるつもりで募集活動をして欲しい。

④ その他について（事業の変更点について報告）
（事務局説明）

委員・・・9月12日に中央図書館オープンとのことだが、オープンイベントは決まっているのか。穂高地域外の友人は知らないことも多い。人を集めるための努力というか、そういう企画を考えていただきたい。

会長・・・開館と別に、閉館の方も全市的にPRしてもらいたい。次のオープンにつながると思う。以上で協議いただいたものが終わるが、他に何か。それではご協力に感謝して第4回図書館協議会を終わらせていただきます。

